

狛江市の取組みを市民の目線で チェックしました

— 平成 29 年度狛江市外部評価結果報告書 —



平成 30 年 3 月

狛 江 市

目 次

平成 29 年度にチェック（評価）した取組み（事業）について・・・・・・・・・・	1
<u>評価対象①</u>	
災害対策関係費（防災訓練・避難所運営協議会）・・・・・・・・・・	2
<u>評価対象②</u>	
こまえ元気わくわく事業・・・・・・・・・・	3
<u>評価対象③</u>	
民間施設ユニバーサルデザイン推進事業・・・・・・・・・・	4
<u>評価対象④</u>	
病児・病後児保育・・・・・・・・・・	5
<u>評価対象⑤</u>	
自転車整理関係費・・・・・・・・・・	6
<u>評価対象⑥</u>	
子ども読書啓発事業 （ブックスタート事業・セカンドブック事業・サードブック事業）・・・・・・・・	7
 【参考】平成 29 年度の外部評価について・・・・・・・・・・	 8

平成 29 年度にチェック（評価）した取組み（事業）について

分野		事業
①	防災・防犯	災害対策関係費 （防災訓練・避難所運営協議会） 
②	地域振興	こまえ元気わくわく事業 
③	地域福祉	民間施設ユニバーサルデザイン推進事業 
④	子育て	病児・病後児保育 
⑤	交通	自転車整理関係費 
⑥	生涯学習	子ども読書啓発事業（ブックスタート事業・ セカンドブック事業・サードブック事業） 

※平成 29 年度の外部評価では、平成 28 年度の状況をもとに評価しました。

防災・防犯

災害対策関係費

(防災訓練・避難所運営協議会)



◆事業の目的◆

震災及び風水害等の災害に備え、被害を最小限にするため、自助・共助・公助の連携協働を推進することで、災害対応能力の向上を図り、日本一安心して安全なまちづくりを推進することを目的としています。

◆事業の内容◆

- ・ 狛江市総合防災訓練、狛江市総合水防訓練の実施
- ・ 避難所運営協議会への補助金の交付
- ・ 避難所運営協議会連絡会の開催

◆事業を取り巻く状況◆

避難所運営協議会は地域住民により構成されていますが、訓練等の活動に参加する会員の年齢層として高齢者層に偏りがあることが課題となっています。

◆ 29年度の外部評価委員会の主な提言 ◆

現在、会員の高齢化が顕著となり、訓練の参加者が固定化されている状況にあります。より多くの市民に情報が伝わるように、市のツイッターやフェイスブック等を活用し、町会・自治会未加入者や単身世帯、小中学生への啓発等、避難所運営協議会と協力して情報発信をしてください。

また、「災害が発生した際に自分たちの身は自分たちで守らなくてはならない」、「自分たちで避難所を開設・運営しなくてはならない」というような、市民の防災に対する「自助」「共助」の意識の醸成を目的とした広報を効果的・継続的に行ってください。

◆ 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応 ◆

避難所運営協議会に関する情報発信について、全戸配布している防災ガイドや安心安全通信、市ホームページ等を活用して実施していますが、今後もより効果的な手法を検討し、周知の強化に努めてまいります。

また、総合防災訓練や防災カレッジ等について、市民がこれまで以上に参加しやすいイベントとなるよう工夫を重ね、防災に対する自助・共助の重要性をより一層啓発してまいります。

【参考】

指標（単位）	26年度	27年度	28年度
総合防災訓練参加者数（人）	1,248	3,218	3,283
避難所運営協議会設置数（箇所）	6（累計 11）	1（累計 12）	0（累計 12）

地域振興

こまえ元気わくわく事業



◆事業の目的◆

商店のPRや新規顧客獲得，経営の発展につながるコンテストを実施し，商店の支援や粕江市の商業の活性化に寄与することを目的としています。

◆事業の内容◆

市内の各商店がテーマに沿った「逸品」を創作するコンテスト事業を隔年で開催しています。

参加者（お客）が各商店を回り，投票する，スタンプラリー形式を採用しています。

過去10年間で、「スイーツ」「ラーメン」「ランチ」「こま丼」「ヌードル」といったテーマで開催しました。

各商店のリピーター確保に寄与するため，投票した参加者にはエントリーした商店で使用できる金券を抽選により配布しています。

◆事業を取り巻く状況◆

期間後も引き続き利用してもらえよう，コンテスト事業の効果を一過性のものにせず，終了後においても商業振興に繋がるような工夫が必要となっています。

◆ 29年度の外部評価委員会の主な提言 ◆

コンテスト終了後のフォローについて，コンテスト参加店のモチベーションの向上や，今後のコンテストへの参加者・参加店の増のため，最優秀作品賞等を受賞した参加店に対し，人目につきやすく話題性のある宣伝方法を検討してください。

◆ 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応 ◆

コンテスト終了後のフォローについて，平成30年度から新たに受賞店ステッカーを作成し，コンテスト終了後に店の目立つ場所や人目につきやすい場所に貼付してもらうことで，コンテスト参加店のモチベーションの向上や今後のコンテストへの参加者・参加店の増，また参加店のPRや新規顧客の獲得につなげます。

また，事業の周知や受賞店のPRについて，参加者アップや参加店のモチベーション向上等のため，ツイッターやフェイスブック等のSNS，新聞やテレビ等のメディアによる周知等，人目につきやすく話題性のある宣伝を行います。

【参考】

指標（単位）	26年度	27年度	28年度
参加店数（店）	14	—	18
参加者数（人）	279	—	239

地域福祉

民間施設ユニバーサルデザイン推進事業



◆事業の目的◆

狛江市福祉基本条例に基づく総合的な福祉のまちづくりを推進するため、民間建築のユニバーサルデザイン施設整備に対し、資金援助することを目的としています。

◆事業の内容◆

対象となる整備は2通りあり、補助率はどちらも対象金額の1/2としています。

1つ目は、福祉基本条例施行規則において規定されている福祉環境整備基準を1項目でも満たす整備に対し、補助金額50万円を上限として助成を行っています。

2つ目は、スロープや手すりの設置等、既存建築物の利便性を図ることを目的とした簡易に設置できる設備に対し、補助金額10万円を上限とした助成を行っています。

◆事業を取り巻く状況◆

事業の周知とともに、補助を活用してもらうために事業内容をより分かりやすく説明していく必要があります。



◆ 29年度の外部評価委員会の主な提言 ◆

平成26年度から28年度までの3年間の補助実績は1件であり、ほとんど利用されていない現状があります。また、補助申請の前段である事前相談の件数についても、3年間で4件と伸び悩んでいます。

そのため、以下の3点を参考に周知方法を工夫してください。

- これまでの補助実績をモデルケースとする等、補助制度を市民に分かりやすく示すこと
- 例えばマンションの管理組合や商工会、工務店、金融機関や市役所の関連部署の窓口等、改修を検討する人が利用する可能性がある場所にリーフレット等を設置すること
- 併用する可能性がある補助金等の制度の担当部署とも連携すること



◆ 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応 ◆

補助制度を市民に分かりやすく説明するため、過去の補助実績をモデルケースとしたリーフレットを新たに作成しました。

また、作成したリーフレットについて、商工会会員に対して約900枚、事業者連絡会に対して約70枚配布するとともに、これまで地域福祉課窓口のみの設置でしたが、福祉保健部全体のラックや関連部署であるまちづくり推進課、併用する可能性がある補助金制度の担当部署である地域活性課窓口のほか、市内金融機関3行にもリーフレットを設置しました。

【参考】	指標（単位）	26年度	27年度	28年度
	補助件数（件）	0	0	1

評価対象④

子育て

病児・病後児保育



◆事業の目的◆ 保護者が就労している場合等において、子どもが病気または病気の回復期にあり、集団保育等が困難な場合に病児・病後児保育室等で病気の子どもを一時預かりすることで、安心して子育てできる環境を整備することを目的としています。

◆事業の内容◆

	病児・病後児保育	病後児預り
実施体制	狛江すこやか病児保育室に委託して実施	社会福祉法人に委託し、ファミリー・サポート・センター事業として実施
実施場所	狛江市猪方3-18-10 野澤医院内	狛江市中和泉3-12-6 和泉児童館内
利用できる方	市内在住の小学校3年生までの児童	市内在住の満1歳から小学生まで
利用時間	(月～金曜日) 午前8時～午後6時 (土曜日) 午前8時～午後2時	(月～金曜日) 午前7時～午後6時 (土曜日) 午前7時～午後1時
利用料金	1日2,000円(減免規定あり)	1時間1,000円(土曜日は1,100円)

◆事業を取り巻く状況◆

共働き家庭の増加等により、病児・病後児保育等のニーズは高まっています。

また、市民の要望や病児保育室の利用の推移を踏まえ、狛江すこやか病児保育室とそれを補完する病後児預りの体制等について改善する必要があります。

◆ 29年度の外部評価委員会の主な提言 ◆

ファミリー・サポート・センターの病後児預りについて、事業開始以降ほとんど利用されていない現状があるため、以下の2点を踏まえたうえで、利用者の増加に向けて対応してください。

- どうしたら利用してもらえるかといった声をアンケート等により収集するとともに、同様の事業で成功している自治体事例を参考にすることで課題を把握し、整理・検証すること
- 病後児を安心して預けることができる制度なのか、子どもを預ける親が不安に思っている可能性があるため、子どもを「安心・安全」に預けることができる制度であることを分かりやすく伝える等、事業の効果的な周知方法等について検討すること



◆ 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応 ◆

平成30年度に予定している「こまえ子育て応援プラン」の改訂に向けたニーズ調査を実施する際に調査項目を設けるとともに、併せて他自治体の事例を収集し、課題等について整理・検証してまいります。また、子どもを安心・安全に預けることができる制度であることが市民にとって分かりやすく伝わるよう、周知方法等について検討します。

【参考】

指標(単位)	26年度	27年度	28年度
ファミリー・サポート・センターの病後児預り延べ利用者数(人)	2	1	0

交通

自転車整理関係費



◆事業の目的◆

駅周辺における放置自転車ゼロを目指し、歩行者の安全の確保、車両の通行の確保を行い、また街並みの美観を保つことを目的としています。

◆事業の内容◆

狛江市自転車等の放置防止等に関する条例に基づき、狛江駅・和泉多摩川駅・喜多見駅周辺放置禁止区域内の路上に放置されている自転車等について、撤去・見回り監視指導を実施しています。

撤去した自転車等は西野川4丁目にある自転車等返還所で60日間保管しています。また、引き取りのない自転車等のうち、再整備することで利用可能な自転車は市内自転車商組合に売却し、リサイクル自転車として販売し、それ以外については処分業者に引き渡し、スクラップ等の処分を行っています。

また、無料駐輪場（中和泉1丁目、和泉多摩川高架下）の管理を行っています。

◆事業を取り巻く状況◆

午前中の放置自転車は減少していますが、午後になると鉄道を利用する人や駅前商店での買い物客等の自転車が路上に放置されている状況にあります。



◆ 29年度の外部評価委員会の主な提言 ◆

駅近くの駐輪場は満車に近い状態が多いですが、駅から少し離れた駐輪場は比較的空きスペースがあります。さらに、自転車等放置禁止区域外には市で無料駐輪場を設置しています。

これらの駐輪スペースを有効活用するため、比較的空きスペースがある駐輪場を周知することで、駅近くの駐輪場利用者の分散化に取り組んでください。



◆ 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応 ◆

平成29年10月上旬、狛江駅前の駐輪場2か所について、駐輪場の空き具合がリアルタイムで分かるアプリを導入し、駐輪場利用者の利便性の向上や分散化に取り組んでいます。

なお、駐輪場にQRコードを表示した看板を事業所の協力で設置していただいています。

また、駅から少し離れた駐輪場等、比較的空きスペースがある駐輪場の周知策として、平成30年度は狛江駅周辺の駐輪場をまとめたパンフレットの作成や案内看板の設置をいたします。

【参考】

指標（単位）	26年度	27年度	28年度
放置自転車の年間撤去台数（台）	1,130	1,053	892

生涯学習

子ども読書啓発事業（ブックスタート事業・
セカンドブック事業・サードブック事業）



◆事業の目的◆

中学校に入学するまでの子どもに対し、その節目の時期に本を贈ることで、子どもが本に触れ合い、読書の楽しさを知るきっかけを作り、自発的な読書活動につなげることを目的としています。

◆事業の内容◆

ブックスタート事業は、乳児検診会場において対面式で赤ちゃんに絵本の読み聞かせを行い、絵本と絵本リスト等を贈呈しています。

セカンドブック事業は、翌年度に小学校に入学する幼児に本と図書館案内を贈呈しています。

サードブック事業は、平成 28 年度からの新たな事業であり、翌年度に中学校に入学する児童に本と図書館利用案内を贈呈しています。またセカンドブック事業・サードブック事業は、図書館が開催する贈呈会において、対象図書を子どもがその場で手に取って選んだ本を直接贈呈しています。

◆事業を取り巻く状況◆

ブックスタート事業は、絵本を介して赤ちゃんと保護者が心触れ合うひとときを持つきっかけとなる事業として、今後も引き続き広く周知する必要があります。

セカンドブック事業・サードブック事業は、贈呈会に来場できない子どもと保護者に対して、本を贈呈するまでの時間の短縮や利便性の向上を検討し、また事業を広く周知する必要があります。



◆ 29 年度の外部評価委員会の主な提言 ◆

限られた対象本から選んでもらっていることから、例えば本の贈呈の工夫等により対象本を拡大することや、市民の意見や図書館の貸出し実績等の客観的なデータを踏まえた多様な視点から本を選定することで、これまで以上に読書の楽しさを知るきっかけづくりや今後の図書館利用につなげてください。

特にサードブック事業については、対象本に本の選定理由や感想を添える等、子どもたちが読みたいと思うような仕掛けを検討してください。

◆ 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応 ◆

対象本の拡大や選定について、学校司書や司書教諭に加えて、対象の年齢となる子どもたちの意見も聞きながら検討いたします。

また、平成 30 年度より、贈呈会の案内に対象本の紹介を追加するとともに、贈呈会会場において対象本の POP による紹介を行うことで、子どもたちが選んだ本以外の本も読みたくなるような工夫をまいります。

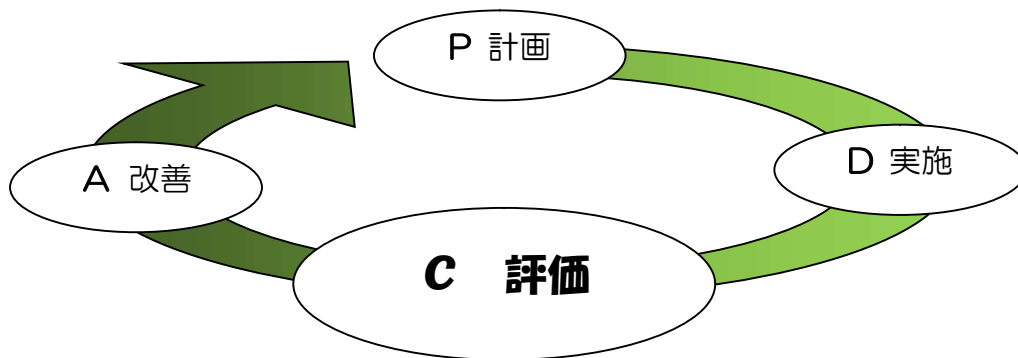
【参考】	指標（単位）	27 年度入学者	28 年度入学者	29 年度入学者
	セカンドブック配布率（％）	98.5	99.3	75.6
	サードブック配布率（％）	—	—	58.0

【参考】平成 29 年度の外部評価について

◇狛江市では、市民目線を重視した外部評価委員会を設置し、PDCA サイクルによる行政評価を行っています。

【参考】

行政評価は、計画（PLAN）→実施（DO）→評価（CHECK）→改善（ACTION）→計画（PLAN）→・・・と循環する、いわゆる「PDCAサイクル」によるマネジメントシステムにおいて、評価（CHECK）に位置付けられるものです。



◇平成 29 年度は、市民を委員長とする 11 人の外部評価委員会委員が市の事業を評価しました。

【参考】平成 29 年度 外部評価委員会委員構成

役職	選出区分	人数
委員長	市民	1人
副委員長	有識者	1人
委員	市民	6人
	有識者	2人
	市職員	1人
計		11人

※市民委員は、公募により選ばれた市民であり、7人のうち2人は無作為抽出により選ばれました。

◇平成 29 年5月から7回にわたり委員会を開催し、29 年9月 21 日に市長へ提言書を提出しました。

《平成 29 年度外部評価委員会の流れ》



※外部評価委員会では、提言に対する市の対応において、「検討します」等となっている事業については、平成 30 年度にその内容を再評価することも視野に入れ経過観察を行うこととしています。

登録番号（刊行物番号）

H29-57

狛江市の取組みを市民の目線でチェックしました

— 平成29年度狛江市外部評価結果報告書 —

平成30年3月発行

発	行	狛江市
編	集	企画財政部 政策室
		狛江市和泉本町一丁目1番5号
		電話 03(3430)1111
印	刷	庁内印刷
頒	布	無償
価	格	